

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-137	16-112	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名（原題／訳）</b>		
Alcohol consumption after health deterioration in older adults: a mixed-methods study. 高齢者における健康状態悪化後のアルコール摂取：質的量的研究		
<b>執筆者</b>		
Gavens L, Goyder E, Hock ES, Harris J, Meier PS.		
<b>掲載誌</b>		
Public Health. 2016 Oct;139:79-87. doi: 10.1016/j.puhe.2016.05.016. Epub 2016 Jul 4.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
健康状態の変化、アルコール摂取量、高齢者		27387049
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b> 高齢者において健康状態の悪化によりアルコール摂取状況は変化するのか、またどのように変化するのかを調査し、アルコール摂取状況の安定にはどのような因子が関与するかを検討することを目的とした。		
<b>方法：</b> 英国に住む50歳以上の住民の無作為抽出した前向きコホート研究であるEnglish Longitudinal Study of Ageingのデータを用い、健康状態悪化とアルコール消費の変化との関連を検討した。2004年から2009年の間に計3回、個別聴取および自己回答式質問調査を実施した。3回の調査の回収率はそれぞれ8,781件（49.9%）、7,168件（40.3%）、6,623件（37.3%）であった。健康状態の悪化の定義は、医師による循環器疾患や糖尿病等の診断あるいは主観的健康観の悪化（goodからfairやfairからpoor）をとした。また、アルコール摂取頻度（毎日、週に5-6日など）および量（エタノール換算）の変化を調査した。健康状態の悪化有無とアルコール摂取の変化（増加、減少、変化なし）の関連についてカイ二乗検定を用いて評価した。また、アルコール摂取を変化させるあるいは維持する要素を探索するために、19例の症例を用いた。英国北部の地方自治体で現飲酒者と元飲酒者を有意サンプリング法で参加を呼びかけ、アルコール摂取様式の変化を説明する様式を帰納的アプローチで解析した。		
<b>結果：</b> 健康状態悪化有無とアルコール摂取量の変化との有意な関連は認めなかった。しかし、健康状態悪化有無とアルコール摂取頻度の変化において有意な関連を認めた（ $\chi^2=15.24$ , $P < 0.001$ と $\chi^2=17.28$ , $P < 0.001$ ）。すなわち、健康状態悪化有無別のアルコール摂取頻度「変化なし」は47.6%, 52.7%、「増加」は23.4%, 20.8%、「減少」は29%, 26.4%であった。質的調査により、高齢者はアルコール摂取に関連する多岐に渡る知識を得ており、健康状態はアルコール摂取に影響する様々な要因の中の一部であることが分かった。		
<b>結論：</b> 高齢者において、健康状態の悪化とアルコール摂取状況変化のパターン（安定、増加、減少）との関連は一定ではなかった。健康状態悪化によるアルコール摂取状況の変化には健康的、心理的、社会的、経済的な要素が関与しており、これらの領域に渡ったアプローチが必要であると考えられる。		